

徐福伝説の民俗文化研究

－日本における徐福伝説を中心として－

歴史民俗資料学研究科

華 雪梅

論文要約

本論文は、徐福伝説の民俗文化を研究するものである。日本における徐福伝説を中心に、それに関する民俗文化の展開と役割を考察する。本論文では、まず文献資料から徐福伝説の歴史上における変遷を捉える。次に日本における徐福伝説ゆかりの地において行った実地調査を基に、徐福伝説とそこから生じた祭祀活動や民俗文化などを探る。こうした民俗学的視点から、徐福伝説と日本人の日常生活との結びつきを考察する。

日本の徐福伝説は、徐福東渡という歴史上の事件から生み出された伝説である。日本では、徐福が立ち寄ったとされる伝説ゆかりの地が、全国で20数カ所以上ある。本論文では日本全国の徐福ゆかりの地、20数カ所の中から、地域性・共通性・異質性を考慮し、青森県中泊町・和歌山県新宮市・佐賀県佐賀市という三つの地域を選定した。それぞれの地域における徐福伝説のあり方を考察し、徐福伝説が地元に着した理由と背景を検討した。また徐福伝説に関する祭祀活動の開催と民俗文化の創造を分析し、徐福伝説の伝承方法とその現代的活用を明らかにした。

今まで日本の徐福伝説に関する研究の多くは、各地域の伝説の単なる紹介にとどまる傾向にあった。また、地域間のつながりや伝説の奥底にある人々の考え方も十分には考慮されていない。伝説の源は歴史にある。そのため、中国の歴史書に登場した徐福のことは、さらに検討されなければならない。だが、歴史的な視点から進める徐福研究の余地は少ない。本論文では民俗学の視点から日本にある徐福伝説のあり方を研究する。そうした方法を通じて、今までの研究の不足を補うことができると考える。

本論文ではこのような歴史的背景における徐福伝説の発生・伝播・変化・伝承に注目し、歴史文献の記述を抜き出して分析を加える。また、民間伝承として伝えられている徐福伝説の実地調査を行い、日本の徐福伝説とそれに関連する民俗文化を明らかにする。2000年前の中国人である徐福は、どのように日本人に受け入れられたのか。徐福に対する祭祀活動や関連する民俗文化の創造などの目的と役割にも考察を加え、徐福伝説の伝承地における人々の心意を解明する。さらに、本論文で選定した三つの徐福伝承地の特徴を検討し、徐福伝説が地元に着した理由と背景を考察する。最後に、2000年にわたり現在でも語り継がれている徐福伝説の時代的特徴を考察し、その現代的役割を明らかにする。

本論文は、序章と終章を含め全7章からなる。

序章では、先行研究とその問題点を考察し、本論文の研究方法を提示した。中国の歴史書に登場した徐福に関する先行研究を考察すると、歴史的な視点から進める徐福研究の余地は少ない。そこで、本論文では民俗学的視点から日本の徐福伝説のあり方を研究する。まず文献資料から徐福伝説の歴史上における変遷を捉える。次に日本における徐福伝説ゆかりの地において行った実地調査を基に、徐福伝説とそこから生じた祭祀活動や民俗文化などを探る。これが本論文の主な研究内容と研究方法である。

第1章では歴史学的アプローチから徐福伝説の歴史的変遷を中国・韓国・日本の文献資

料を通して整理した。徐福が渡航してから 2000 年の間の徐福にまつわる文献記録は、時代の移り変わりによって変化してきた。本章では、文献記録の変化から、徐福東渡伝説の発生と変容を明らかにした。徐福東渡の実像を探るため、中国の歴史に登場した徐福の分析から始める。まず、一次資料の『史記』の記録を分析した。さらに、『史記』から派生した歴史文献や漢詩や筆談資料などの文献を整理し、徐福東渡伝説の変容を検討した。これらの作業により、東アジアにおける時代環境の変化に伴い、徐福伝説がどのように変化したのか、歴史上でどのように利用されたのかを明らかにした。

第 2 章では、東アジアの徐福伝説の全体像を述べた。徐福の出身は中国であるが、韓国や日本でも古くから徐福伝説の伝承地が多くある。最初に、中国の徐福伝説について、「徐福の故郷」・「徐福集団の出港地」など、幾つかの論争を検討した。そして徐福関連事物の建造をはじめ、徐福研究組織を整理することによって、徐福伝説の現代的意義を提示した。次に、韓国の済州島における徐福伝説を対象として考察を行った。徐福公園などの事物の建立背景などを検討し、徐福伝説の現況を捉えた。三番目に、日本の徐福伝説について、地図や図表などを通じて広く分布している状況を把握し、伝承地間の関係を検討した。最後に、東アジアを代表する中国・韓国・日本の徐福伝説に着目し、国際的な視点で徐福伝説の現在を捉えた。

第 3 章から第 5 章では、民俗学的アプローチから三つの調査地の現地調査を行い、徐福伝説の実態を考察した。

第 3 章は本州最北端に位置する青森県中泊町旧小泊村を調査地とし、2017 年 8 月に行った現地調査に基づき、当該地域の徐福伝説をまとめたものである。小泊村に語り継がれている徐福伝説をめぐって、昔から伝えられてきた徐福伝説の由緒とその内容を整理し、漁民の航海信仰を検討した。また、地元の徐福伝説に由来する「中泊徐福まつり」の構造を考察し、地元の徐福伝説に関する民俗文化を検討した。「中泊徐福まつり」は単に徐福伝説を語る活動ではない。地元の郷土芸能が祭りの場で上演され、徐福伝説と融合した多様な舞踊が行われることが重要である。こうした形態が徐福伝説を継承する中泊特有のあり方を示している。このような包容力により、徐福伝説は地元で村おこしに利用され、地域振興の文化要素として活用されているのだ。

第 4 章では、和歌山県新宮市に伝えられている徐福伝説を踏まえ、地元の徐福伝説を伝承する実態とその背景を明らかにした。古い歴史を持っている和歌山県新宮市の徐福伝説を手がかりとして、地元での徐福伝説から展開した徐福顕彰活動の状況を考察した。今まで伝えられてきた徐福伝説がどのように新宮市の人々の日常生活と結びついているのか、地元の徐福伝説がどのような形で伝承されているのか、という今まで徐福研究で見落されてきた点に着目し、若干の考察を行った。事例として 2019 年時点までに 56 回の開催を数える「熊野徐福万燈祭」を取り上げた。徐福伝説に関連する民俗文化は、新宮市の地域振興に利用されているだけでなく、徐福伝承地としての特徴をも示している。徐福関連商品の開発は、観光の振興に役立っている。そして、その開発を通して、伝統文化を発掘しようとする地元の人々の強い意欲が形成されるのである。

第 5 章は佐賀県佐賀市の徐福伝説にまつわる事物の調査や、地元の人々に対する聞き取り調査を基に分析していった。その分析から徐福伝説が佐賀市で定着し、語り継がれている背景や要因と、その伝承形式を明らかにした。事例として、1980 年に開催された金立神

社例大祭を取り上げた。金立神社例大祭は、祭りという形で地元の人々の徐福に対する記憶（特別な感動）を呼び戻す。往古から伝えられてきた行事の開催は、金立大権現としての徐福に対する敬意の表現だけでなく、先祖たちから伝えられてきた信仰伝承の現れである。歴史文献の分析や実地調査を基に、徐福伝説の伝承形式と、それに端を発した民俗文化の実態を明らかにした。

終章では、「いま」の視点だけではなく、時間軸と空間軸を移行させて徐福伝説の発生・伝播・変化・伝承を考察した。本論文で調査地として選定した三つの徐福伝承地の特徴を整理した。その結果、この3地域の徐福に関連する事物の建造と民俗文化の創造に注目すると、それぞれの特徴がみられた。さらに、東アジアにおける徐福伝説の古代・中古・中世・近世・現代において、それぞれの徐福伝説の時代における特徴を考察した。

以上の考察から、時代と地域の要求に応じて自在に変化できる特徴を持つ徐福伝説は、その現代的役割を徐福伝承地で果たしていることが分かった。その現代的役割は、2000年以上の歴史を持つ徐福伝説が現在でも生命力を保っている理由である。このような役割を持っているからこそ、徐福伝説は2000年にわたった現在でも伝承されているのである。現代の徐福伝説は、中国・韓国・日本の各徐福伝承地で活用され、地域間の絆を深めている。そして地域社会の活性化をも促している。